

議事概要

※第266回長期評価部会（令和5年10月25日（水）開催）の議事概要より、「日本海側の海域活断層の長期評価 一兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖一（令和6年8月版）」に関する部分を抜粋。

出席者

部会長	岡村 行信	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター活断層・火山研究部門名誉リサーチャー
委員	伊藤 弘志	海上保安庁海洋情報部技術・国際課海洋研究室上席研究官
	奥村 晃史	国立大学法人広島大学名誉教授
	佐竹 健治	国立大学法人東京大学地震研究所教授
	汐見 勝彦	国立研究開発法人防災科学技術研究所地震津波防災研究部門副部門長
	鈴木 康弘	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学減災連携研究センター教授
	都司 嘉宣	四万十市地震・津波対策アドバイザー／国立研究開発法人建築研究所 国際地震工学センター特別客員研究員
	堤 浩之	同志社大学理工学部環境システム学科教授
	西村 卓也	国立大学法人京都大学防災研究所教授
	山崎 晴雄	首都大学東京（現 東京都立大学）名誉教授
	矢来 博司	国土地理院地理地殻活動研究センター地理地殻活動総括研究官
	吉田 康宏	気象庁地磁気観測所長
事務局	郷家 康德	文部科学省研究開発局地震・防災研究課長
	重野 伸昭	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査管理官
	佐藤 壮紀	文部科学省研究開発局地震・防災研究課地震調査研究企画官
	岩切 一宏	気象庁地震火山部地震火山技術・調査課調査官
	松尾 健一	国土地理院測地観測センター火山情報活用推進官
	上野、熊谷、吉本、木村	（文部科学省 研究開発局地震・防災研究課）
	■■■、■■■	（地震予知総合研究振興会※）

※委託事業「地震調査研究推進本部の評価等支援事業」の受託者

—海域活断層評価手法等検討分科会の審議状況について—

事務局（熊谷）：（参考資料3に基づき説明）

岡村部会長：海域については淡々と活断層の評価を進めている状況である。基本的には、日本海南西部の海域活断層の長期評価における評価手法を踏襲している。もう少し検討が進んだ段階で、長期評価部会で状況を説明する機会を設けたいと考えている。ご質問やご意見等あれば、願います。

佐竹委員：日本海南東部という呼称に違和感を覚えるが、日本海をどのように分けているのか。

岡村部会長：今回の評価対象領域について、全体の案はまだ固まっていない。

佐竹委員：ここで言う日本海南東部は、どの辺りを指しているのか。

岡村部会長：今議論しているのは、主に近畿や北陸、能登半島の北方周辺である。評価対象海域に能登半島の北方までは含めるが、富山湾側を含めるかどうかはまだ決まっていない。

佐竹委員：地域については了解したが、呼称についてはご検討いただきたい。

岡村部会長：呼称については、いただいたご意見を考慮して検討する。

事務局（熊谷）：海域の名称については、評価対象範囲などが確定した後に、最終的に決定させていただきたい。

堤委員：日本海南東部の海域活断層の評価は、いつ頃にまとめる予定なのか。活動層分科会では現在、近畿地域の活断層の長期評価を進めており、この後は北陸を含む中部地域の評価に移る予定である。その関連で伺いたい。

岡村部会長：個別の断層に関しては既に半分以上の評価が終わっているが、富山湾側をどう扱うかによって少しスケジュールは変わってくる。公表時期を確言することは難しく、まだ評価文も出来上がっていない状況であるが、可能であれば来年度中を目途に公表したいとは考えている。

事務局（重野）：事務局としても同様の見通しで考えている。

事務局（上野）：参考資料 3 p. 4、議事要旨の括弧書きの番号に誤りがあるので修正させていただきたい。

以 上